

令和3年度補助系統別事業評価票(伊良湖支線)

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖支線(福祉C堀切)	豊鉄バス	同左	渥美病院～保美	29.0 km	8.1 回	田原市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<接続する系統> 豊橋鉄道渥美線 <接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンテパルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥浜浜線、⑦中山線)	

2. R3年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)																														
計画どおり運行されたか(△)	評価																															
計画どおりか。そうでない場合は理由	評価の基準<事業実施の適切性> A: 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合 B: 車両故障等運行に支障をきたすような事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合	<table><tr><th>年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>年間利用者数【人】</td><td>52,818</td><td>53,026</td><td>57,973</td><td>48,861</td><td>40,554</td></tr><tr><td>平均乗車密度(実績)</td><td>3.2</td><td>3.2</td><td>3.5</td><td>2.6</td><td>2.2</td></tr><tr><td>輸送量(実績)</td><td>23.3</td><td>23.3</td><td>25.5</td><td>21.3</td><td>17.8</td></tr><tr><td>収支率(実績)</td><td></td><td>44.4%</td><td>46.6%</td><td>35.3%</td><td>30.5%</td></tr></table>	年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	年間利用者数【人】	52,818	53,026	57,973	48,861	40,554	平均乗車密度(実績)	3.2	3.2	3.5	2.6	2.2	輸送量(実績)	23.3	23.3	25.5	21.3	17.8	収支率(実績)		44.4%	46.6%	35.3%	30.5%
年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																											
年間利用者数【人】	52,818	53,026	57,973	48,861	40,554																											
平均乗車密度(実績)	3.2	3.2	3.5	2.6	2.2																											
輸送量(実績)	23.3	23.3	25.5	21.3	17.8																											
収支率(実績)		44.4%	46.6%	35.3%	30.5%																											
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	評価の基準<目標・効果達成状況> A: 年間目標利用者数を達成できなかった場合 B1: 年間目標利用者数を達成できなかったものの、目標の70%以上の利用があった場合 B2: 年間目標利用者数を達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合 C: 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合																														

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
B2	目標 58,552	前年比83.0%で、目標に対しては69.3%で目標を達成することができなかった。前年比の内訳として、定期外54.4%、定期109.8%となった。起点の渥美病院を利用する昼間帯の高齢者のお客様が昨年より減少したので、昼間時間帯の利用促進が必要。	市町村名: 田原市 新型コロナウイルスの影響により、バスの利用者が減少している。外出が減ったことにより、一般利用者の通院や買い物での利用が減っていると考えられ、朝夕の学生利用も減少したと考えられる。
	結果 40,554		
特記事項			
運行事業者の所見等(△)		市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
		市町村名:	市町村名:

複数市町村を跨ぐ系統としての役割					
指標(市町村を跨いでの利用)		利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ利用者数(△)	2,625 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者のほとんどを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。旧町を跨ぎ田原駅前を利用した利用者は、昨年より増加した。	市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
全利用者に占める率(△)	67.8 %		・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。		
特記事項	合併前の田原町、赤羽根町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
	田原駅周辺にラグララン(商業施設[H30.6~]・親子交流館すくっと[H31.4~])、ABホテル[H31.1~]がオープンした。(田原市)

3. R3年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
B	事業評価を踏まえた取組その他の	高齢者の利用促進策として、元気バスのPRチラシを、沿線市と協力し公共施設に配布した。	市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△)		沿線市と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用)		
関係者の連携等(△□)		東三河の各市町と協力し、電車・バスを活用した謎解きイベントの実施。	・福祉回数券等の交付 ・免許返納者に対し、豊鉄バス株元気バス(1年券)引換券の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・市主催のイベント等でPR		

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通学利用者が多いので、田原市内の高校生利用者への情報提供を継続的に行っていく。また、利用が減少している昼間時間帯(主に高齢者)の利用促進が必要。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額となる。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少	市町村名：	市町村名：
運行事業者(△)			

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R4年度、R5年度に行う取組	沿線市と協力し、利用促進策を実施する。(R3.10.30・R3.11.18 渥美営業所見学を実施済) 令和3年3月に導入したバスロケーションシステムのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人[H28・H29年度の集計値]の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和元年度の利用者実績は95,930人となっている。		

通信欄 (この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください

令和3年度補助系統別事業評価票(伊良湖本線(渥美病院休暇村明神))

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(渥美病院休暇村明神)	豊鉄バス	同左	渥美病院～伊良湖岬	33.2 km	10.5 回	田原市
細系統	休暇村	〃	渥美病院～伊良湖岬	33.2 km	6.0 回	田原市
	中里	〃	渥美病院～伊良湖岬	29.8 km	4.5 回	田原市
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<接続する系統> 豊橋鉄道渥美線 <接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンテパルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦中山線)	

2. R3年度の運行状況

事業実施の適切性		評価	計画どおりか。そうでない場合は理由	《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)				年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。			年間利用者数【人】	29,049	43,797	44,522	34,562	78,301
				平均乗車密度(実績)	4.1	5.1	4.4	3.3	3.1
				輸送量(実績)	14.3	19.8	19.3	14.5	32.5
				収支率(実績)		68.6%	59.0%	45.2%	40.9%

目標・効果達成状況							
評価		目標の達成状況(△)		運営主体の所見、理由分析、認識(△)		市町村の所見、理由分析、認識(□)	
B1	目標	103,884		令和2年10月1日の路線再編により、運行回数が4.4から10.5回に増えた影響で利用者は増えているが、目標値に対して、75.4%で目標を達成することができなかった。 豊橋駅前から伊良湖岬までの直通系統がなくなったことにより、この系統でしか伊良湖岬に行けなくなったが、伊良湖岬の利用客が昨年よりも減っているため、観光利用者の減少が要因の一つとして考えられる。		市町村名：田原市	
	結果	78,301				新型コロナウイルスの影響により、バスの利用者が減少している。外出が減ったことにより、一般利用者の通院や買い物での利用が減っていると考えられ、朝夕の学生利用も減少したと考えられる。	
	特記事項						
運行事業者の所見等(△)				市町村の所見、理由分析、認識(□)		市町村の所見、理由分析、認識(□)	
				市町村名：		市町村名：	

複数市町村を跨ぐ系統としての役割					
指標(市町村を跨いでの利用)		利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ利用者数(△)	5,130 人/月	旧町を跨いでの利用が利用者の多くを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。	市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
全利用者に占める率(△)	73.2 %		・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。		
特記事項	合併前の田原町、渥美町を跨ぐ利用者と率。推定値。				

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
	田原駅周辺にラグララン(商業施設[H30.6～]・親子交流館すくっと[H31.4～])、ABホテル[H31.1～]がオープンした。(田原市)

3. R3年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組	高齢者の利用促進策として、元気バスのPRチラシを、沿線市と協力し公共施設に配布した。	市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△)		沿線市と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用)		
関係者の連携等(△□)		東三河の各市町と協力し、電車・バスを活用した謎解きイベントの実施。	・福祉回数券等の交付 ・免許返納者に対し、豊鉄バス(元気バス(1年券)引換券の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・市主催のイベント等でPR		

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通学利用者が多いので、田原市内の高校生利用者への情報提供を継続的に行っていく。また、利用が減少している昼間時間帯(主に高齢者)の利用促進が必要。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額となる。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少	市町村名：	市町村名：
運行事業者(△)			

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R4年度、R5年度に行う取組	沿線市と協力し、利用促進策を実施する。(R3.10.30・R3.11.18 渥美営業所見学を実施済) 令和3年3月に導入したバスロケーションシステムのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人[H28・H29年度の集計値]の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市	市町村名：	市町村名：
渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和元年度の利用者実績は95,930人となっている。		

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※適宜、セルの結合を変えて利用してください	

令和3年度補助系統別事業評価票(伊良湖本線(豊橋保美))

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(豊橋保美)	豊鉄バス	同左	豊橋駅前～保美	40.6 km	8.0 回	豊橋市、田原市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<接続する系統> 名古屋鉄道、豊橋鉄道渥美線 豊鉄バス(新豊線、豊川線) <接続される系統> 豊鉄バス(豊橋市内路線)、豊橋コミュニティバス(①しおかぜバス、②かわきたバス)、田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンデパルク線)、田原市ぐるりんコミュニティバス(⑥表浜線、⑦中山線)	

2. R3年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)							
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由	年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	年間利用者数【人】	127,523	103,828	117,923	108,272	77,037
		平均乗車密度【実績】	4.7	3.7	4.0	3.5	3.0
		輸送量【実績】	37.6	29.2	31.6	27.6	24.0
		収支率【実績】			42.0%	45.3%	40.1%

3. R3年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組 その他の取組	新しい生活様式におけるバスの利用促進策として、ウエットティッシュを、豊橋市と協力し豊橋駅前バス停にて配布した。 また、田原市と協力し利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用)	市町村名： 豊橋市 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に対応した「新しい生活様式」での公共交通の乗り方の周知を豊橋駅のバス乗り場やバス車内等で行った。	市町村名：
改善点とした事項(△)					
関係者の連携等(△□)					
必要な情報交換を実施。		東三河の各市町と協力し、電車バスを活用した謎解きイベントの実施。	・福祉回数券等の交付 ・免許返納者に対し、豊鉄バス隣元気バス(1年券)引換券の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・市主催のイベント等でPR	東三河地域公共交通活性化協議会と連携し、夏休み小学生50円バスと東三河バス整理券ラリー&歴史謎解きゲームを実施した。	

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
令和2年10月1日の路線再編により、伊良湖岬へは行かない系統になったため観光客は他系統を利用するようになった。 並行して運行している他系統と一緒に利用促進策を図る。	市町村名： 田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額となる。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少	市町村名： 豊橋市 バスロケーションシステム導入により、バスの利便性が向上していることを多くの人に周知するとともに、実際に利用したくなるような企画・イベントを実施する必要がある。新型コロナウイルス感染症の影響下においても公共交通は安心安全に乗車できることを周知することなど、利用者の減少を食い止める対策が必要であると考えている。	市町村名：
運行事業者(△)			

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R4年度、R5年度に行う取組	豊橋駅周辺に複合行政施設がR3.11にオープンし、その記念きっぷの作成や「豊橋まちなかおでかけきっぷ」を設定する事で、利用促進を図る。 また、令和3年3月に導入したバスロケーションシステムのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名： 田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名： 豊橋市 令和3年11月の豊橋市まちなか図書館の開館に合わせ割引乗車券を設定し、利用促進を図るほか、豊橋市まちなか図書館において絵本を使った公共交通利用促進イベントなどを実施予定。 その他バスの利用につながる企画を検討し、利用者の増加に努めていく。	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名： 田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人[H28・H29年度の集計値]の維持(増加)	市町村名： 豊橋市 目標未記載	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。	令和3年度生活交通確保計画における目標である「収支改善率1%以上」については、新型コロナウイルス感染症の影響により達成できなかったと認識している。	

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名： 田原市 渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和元年度の利用者実績は95,930人となっている。	市町村名： 豊橋市 フィーダー系統である豊鉄バス「三本木線」と豊橋市コミュニティバス「しおかぜバス」、「かわきたバス」に豊橋駅で接続している。	市町村名：

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※適宜、セルの結合を変えて利用してください	

令和3年度補助系統別事業評価票(伊良湖本線(渥美病院保美))

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
伊良湖本線(渥美病院保美)	豊鉄バス	同左	渥美病院～保美	19.9 km	7.0 回	田原市
細 福祉センター経由	〃	〃	渥美病院～保美	20.5 km	4.5 回	〃
系統 福祉センター経由	〃	〃	田原駅前～保美	19.3 km	2.5 回	〃
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図(△□)
<接続する系統> 豊橋鉄道渥美線 <接続される系統> 田原市ぐるりんバス(③市街地線、④童浦線、⑤サンテパルク線)、田原市ぐるりんミニバス(⑥表浜線、⑦中山線)	

2. R3年度の運行状況

事業実施の適切性		評価の基準<事業実施の適切性> A:事業計画どおりの運行回数で確保されている場合 B:車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合	《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)			年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由		年間利用者数【人】	111,569	87,506	94,492	94,127	63,045
A	補助対象期間の開始日から、やむを得ない場合を除き、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。		平均乗車密度(実績)	4.2	3.3	3.4	3.6	4.9
			輸送量(実績)	63.0	48.1	48.9	48.2	34.3
			収支率(実績)		50.5%	50.4%	53.7%	72.0%
		評価の基準<目標・効果達成状況> A:年間目標利用者数を達成できた場合 B1:年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合 B2:年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合 C:年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合						

目標・効果達成状況
評価 目標の達成状況(△) 目標 48,995 結果 63,045 特記事項 運営主体の所見、理由分析、認識(△) 市町村の所見、理由分析、認識(□) 市町村名: 田原市 当該系統については、前年度と比べ微減であるが、他の並行して運行している系統が減少しており、路線全体で見れば、新型コロナウイルスの影響により、定期外・定期とも大きく減少しているため、バスの利用者が減少している。
運営事業者の所見等(△) 市町村の所見、理由分析、認識(□) 市町村名:

複数市町村を跨ぐ系統としての役割
指標(市町村を跨いでの利用) 市町村を跨ぐ利用者数(△) 5,400 人/月 全利用者に占める率(△) 82.6 % 特記事項 利用状況及び所見(△) 旧町を跨いでの利用が利用者の多くを占め、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。これらの利用者は、起点にある渥美病院への通院や田原駅への鉄道利用者や、成章高校、渥美農業高校、福江高校への通学利用者が大部分と考えられる。 住民の利用状況(□) 市町村名: 田原市 ・朝夕の高校生の通学利用者が大部分を占めている。 ・日中は高齢者の渥美病院等への通院や田原市街地での買い物で利用されている。

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△) 沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

3. R3年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組	高齢者の利用促進策として、元気バスのPRチラシを、沿線市と協力し公共施設に配布した。	市町村名：田原市	市町村名：	市町村名：
改善点とした事項(△)		沿線市と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布。(全戸配布用・学生用)	・令和元年9月から市内高校生への通学定期券の購入助成を実施 ・運営主体と協力し、利用促進パンフレットの作成、配布(全戸配布用・学生用)		
関係者の連携等(△□)		東三河の各市町と協力し、電車・バスを活用した謎解きイベントの実施。	・福祉回数券等の交付 ・免許返納者に対し、豊鉄バス(元気バス(1年券)引換券の交付 ・広報紙で利用促進のPR ・市主催のイベント等でPR		

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
通学利用者が多いので、田原市内の高校生利用者への情報提供を継続的に行っていく。また、利用が減少している昼間時間帯(主に高齢者)の利用促進が必要。	市町村名：田原市 ・高校への通学利用者が大部分を占めているが、親の送迎による通学者も多い。 ・学生以外の利用が少ない。 ・距離が長いため運賃が高額となる。 ・新型コロナウイルスの影響による利用者の減少	市町村名：	市町村名：
運行事業者(△)			

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
R4年度、R5年度に行う取組	沿線市と協力し、利用促進策を実施する。(R3.10.30・R3.11.18 渥美営業所見学を実施済) 令和3年3月に導入したバスロケーションシステムのPRに努め、利用者利便性向上を図る。	市町村名：田原市 ・令和元年9月から行っている市内高校生への通学定期券の購入助成を継続して実施する。 ・中学生、高校生を対象とした利用促進事業(パンフレット配布等)を実施する。	市町村名：	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況についての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
目標	市町村名：田原市 市内公共交通全体の利用者数165万人[H28・H29年度の集計値]の維持(増加)	市町村名：	市町村名：
自己評価	補助系統の実績については、H28・H29年度の集計値よりも減少している。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
市町村名：田原市	市町村名：	市町村名：
渥美病院・田原駅・保美バス停で田原市ぐるりんバスと接続しており、令和元年度の利用者実績は95,930人となっている。		

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※適宜、セルの結合を変えて利用してください	